

土徳のまちで生きる楽しみ

たなかみきお
南砺市長(富山県) 田中幹夫



市内二拠点居住で 自然まんなか生活実施中

富山県南西部に位置し、南は岐阜県と西は金沢市と接する南砺市は、庄川と小矢部川の源流を有し千数百mの山々から砺波平野までに広がる面積680km²の市です。

平成16年に4町4村が合併して誕生しました。私は利賀川上流部の利賀村上畠で生まれ育ち、標高約650m地点に大きすぎる家と田畑、山林を有しています。大きすぎる家には現在80歳をとうに超えた母が住んでいます。現在私は市内に小さな居を構え、普段は妻と住んでいます。実家との距離は車で40分ほどです。

市内での二拠点居住の生活も17年になります。地元・利賀村上畠地区は人口も戸数



地元で受け継がれている獅子舞祭

も減ってはいますが、移住者を迎え、春の獅子舞祭や寺社や道路の管理など小さなコミュニティの中で今も協力し合って暮らしています。

冬の公共施設の屋根雪下ろしや道路の草刈りはもちろん、わが家の田んぼのあぜ草刈りや雪囲い作業も私の仕事です。

母は元気で畑で野菜をつくり、孫やひ孫に農業の楽しみや自然の恵みを教えてくれます。最近は何となくそうした農耕生活が楽しく感じられるようになりました。もともと山の家で祖父や両親と暮らし、子どもたちを育てた場所ですので、一番安心できる家であり、自分の居場所です。

若い頃は「そば打ち」を趣味とし、練習をしながら「将来はこの山奥の一軒家でそば屋をやるうか」とさえ思っていたほどです。山菜も綺麗な水もあり、そばも栽培できるのですから。

しかし17年前に市長に就任してからは、その夢は徐々に後回しになり、今ではそば打ちもできていません。機械であぜ草を刈りながら、この土地での未来を考える時間が、私のリフレッシュタイムです。

「土徳」による小さな世界芸術文化都市

4町4村が合併してできた南砺市には、それぞれの地域が誇る歴史と文化がありま



五箇山合掌造りの前でそば打ち

す。21年前まで自立した自治体でしたが、世界文化遺産「五箇山合掌造り集落」、ユネスコ無形文化遺産「城端曳山祭」、木彫りの欄間や獅子頭で有名な日本遺産「井波彫刻」のほか、「五箇山民謡」、「福野夜高祭」、神輿祭り、各地の獅子舞など、豊富な伝統文化が一つのまちになりました。そのほかに、木製バットの福光や五箇山和紙もあります。

さらにこの半世紀で世界的な演劇の聖地となったふるさとは、世界的演出家・鈴木忠志氏率いる劇団SCOTの拠点があり、2019年にはロシア・サンクトペテ



演劇の聖地で堪能する劇団SCOTの公演

おかげさまで、私も演劇や音楽が大好きで、毎年友人を誘って楽しんでます。こうした文化をきっかけに、世界の多くの方々と交流を深めてきました。若かりし頃、利賀村青年団時代には民謡「麦屋節」の踊り手を務めたこともあります。芸は身を助けると申しますが、今でも宴会芸として披露することがあります(笑)。

ルブルクとの共同開催で「シアター・オリンピックス」が開催され、世界に名をはせました。今も夏には世界中から演劇人やそのパトロン、演劇ファンが集まります。また、毎年夏には「スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド」というワールドミュージックのフェスが円形劇場ヘリオスを中心に開催され、世界のミュージシャンから注目されています。そのほか「南砺市いなみ国際木彫刻キャンプ」や日本で最も古い民謡とされる「こきりこ」などもあり、早くから文化庁の「文化芸術創造都市」に認定されています。この地には、自然や先人、他者を敬い、その土地に根付く信仰心や思想を表す「土徳」という言葉があります。「土徳」は人を育て、地域をまとめるチカラもあると感じます。

「結」「自利利他」が地域を救う

雪深い特別豪雪地帯で、山間過疎地に生まれ育った私は、小さい頃から近くの方々に助けられて育ちました。小学校は3kmほど山を下ったところにあり、3mを超える雪の中、隣近所のおじいさんらが道を除雪して、私たちの通学路を踏み固めてくれました。

何かあると必ず親戚と近所の皆さんが集まり手伝ってくれます。小さな頃、田植えの日には多くの方々が集まりお互いを手伝い合いました。これは、合掌造り家屋だった頃から続く、屋根葺き作業を地域の中で支えあう「結」の精神が根付いていたからです。

今も困っている方がいれば、みんなで助け合い、地域全体で地域を守る形があります。普段そこに住んでいなくても、共同作業が必要な時は県内から集まってくれます。人口は一気に減っていますが、その地域に貢献したいという関係人口を増やすことが大事となります。こうした地域コミュニティを維持・存続するため、市としては「小規模多機能自治」を市内31地域で進め、公民館、自治振興会、地区社協を束ねた「地域づくり協議会」を設立いただいています。協議会では、地域ごとに異なる困りごとや課題に対して、地域で解決を図る住民自治を推進しています。



豪雪地帯で育まれた結の精神

例えば、道路から家の玄関まで除雪できない高齢者の家は、除雪機を持った近所の方が道を開けてくれたり、高齢者向けの通所サロンが開催されるなどの好事例も出ています。防災訓練や空き家対策も地域で積極的に動いていただいています。行政の仕事を押し付けるのではなく、地域の未来を考えながら「結」の精神で住み良い地域にしていけることが大切です。もちろん行政としても、それぞれの地域づくり協議会の事務局機能への人件費助成や自由度の高い事業メニューに応じた交付金を用意して、住民自治の応援団として支援を行っていきます。